



卒業特別号

元気通信

ブダペスト日本人学校

学校だより

平成28年 3月 6日号

卒業おめでとう！！

本日、無事に卒業証書授与式を行いました。卒業生7名の皆さんの立派な姿を見て、保護者の皆様もきっと我が子の成長を感じられたのではないのでしょうか。今年度の在籍職員から一言ずつですが、卒業する皆さんへのメッセージです。

優しく おおらかに



中学校の扉を叩くとき、新しい生活が始まります。今のやさしさを持ち続け、ちょっと多めの勇気をバッグにつめて飛び込んでいってほしいなど願っています。HAJRÁ!

人生という「道」は、自分の力で歩んでいくものです。どこに向かうかは自由です。でも、責任が伴います。悩んだときは立ち止まっていい。じっくりと考えて、進んでいってください！



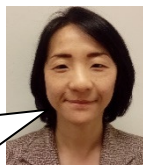
この1年間、共に活動して皆さんの成長ぶりは、しっかりと見てきました。立派な姿になって卒業してゆくのを嬉しく思います。これからのさらなる成長を願っています。

おもしろいことを言っておどけていると思いきや、やるべき時には真の力を発揮できるそんなあなた達でした。とても楽しい1年間をありがとう。さあ、いよいよ中学生ですね。Let's jump to tomorrow.



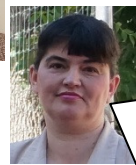
楽しい時、うれしい時には、笑顔いっぱい6年生のみなさん！！どんな時にもその笑顔を忘れずに、中学生になってもがんばってください！！

「相手のことを先に考える。」その想いは、必ずそのまま自分に返ってきます。人に優しく・・・、同じくらい自分にも優しくしながら中学生生活を楽しんでください。



This year I want to remind you of what I have told you so many times in the classroom : Studying English, memorizing test is hard, not fun. But later in the future, SPEAKING in English, communicating with other people from all over the world is... GREAT.

ここブダペストで出会えた事を幸せに思います。興味のある事に、どんどん挑戦して自分の夢をつかんでください。

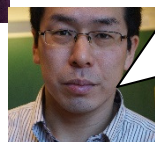


卒業生の皆様

今までの6年間は12年間の義務教育のちょうど半分ですね。(笑)



中学生になっても勉強を頑張ってください。また四月から一緒にハンガリー語の学習を続けましょうね。よろしくお祈りします。



この1年間を振り返ってみると、いろいろな経験ができたことと思います。その経験を活かし、中学校(中学部)では、「これを頑張りたい」という目標をもって学校生活を送ってください。

中学生は進路を考える3年間です。進むべき道を、自分で考えることができるって、素晴らしいですね。自分を見つめ、自分を考える3年間にしてください。



いつも下級生のことを考えて行動してくれた6年生。休み時間に下級生に優しく接している姿が印象的でした。これからもその優しさを大切にしてください。みなさんの活躍を祈っています。

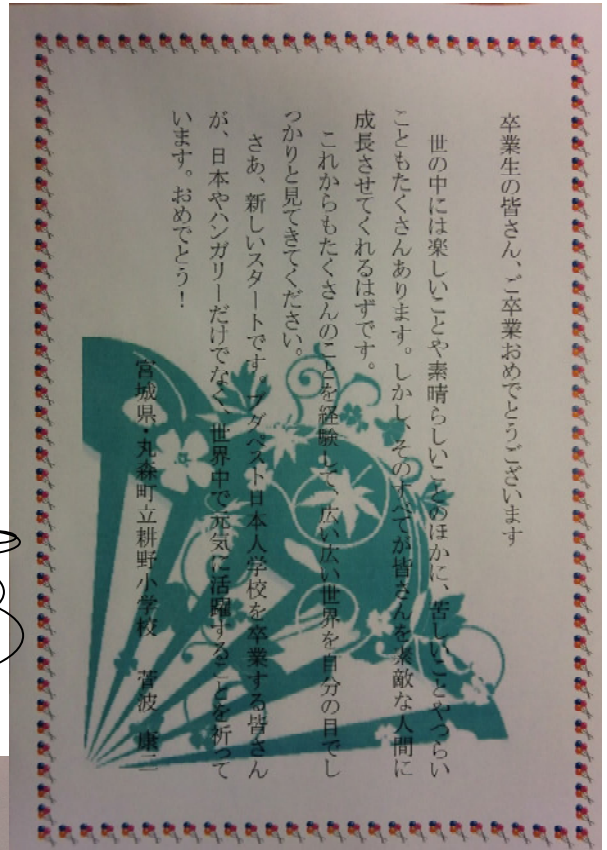
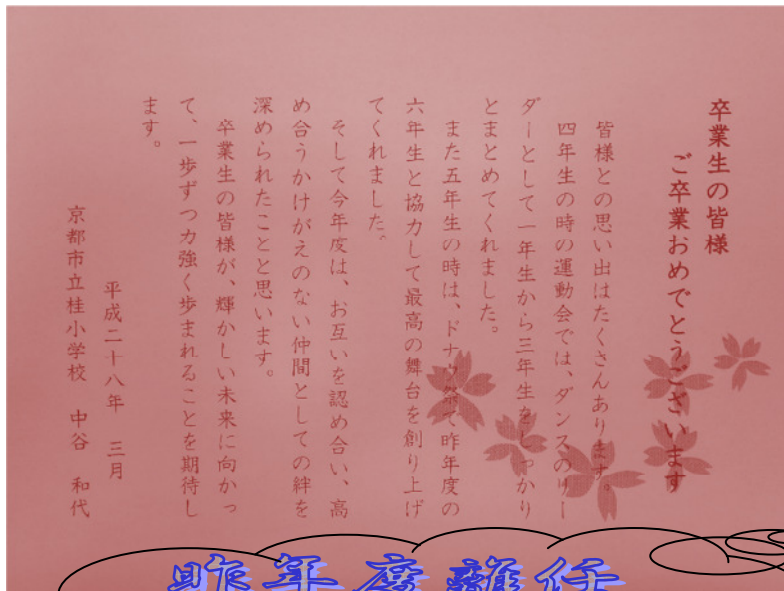
何事にもコツコツと努力することのできる6年生。その姿は在校生の皆さんにしっかりと引き継がれていくはず。4月からは中学生としてさらに活躍してくれることを期待しています。



日原先生



好きなこと、できることをするのは当たり前。だけど、得意じゃなくても、失敗しても、こわくたっていい。一度決めたことをやり通してみませんか。そこにこそ、「人としての強さ」=「学び」が待っているはず。



昨年度離任された先生方からの祝詞

ご卒業おめでとうございます

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。今、みなさんの胸の中は、喜びと希望で満ち溢れていることでしょう。みなさんと楽しく過ごしたことを、昨日のことに覚えていてください。春の遠足、夏期合宿、運動会、ドナウ祭、餅つきカルタ大会と、思い出多き学校から巣立つ今日の日、みなさんに送りたいメッセージがあります。

それは、「たゆまざる 歩み 恐ろし かつむり」です。

今年みなさんと同じ6年生を担任しています。その6年生と修学旅行で長崎県を訪れました。71年前、原子爆弾が落とされたナガサキで平和学習を行いました。平和祈念公園には、日本全国、世界各国から人々が訪れ、平和の祈りが捧げられています。そこに堂々と佇む平和祈念像を作った彫刻家・北村西望さんは102歳で亡くなるまで現役で創作に励みました。彼が平和祈念像を作っていたある夜、足元にいたかつむりが、翌朝見ると9メートルもある像のてっぺんに上がっていました。

彼の半生は、苦勞の連続でした。ライバルたちは次々と賞を受賞する中、彼は8年間も賞をとることができず、彫刻家を辞めようと思っただけです。「たゆまざる 歩み 恐ろし かつむり」は、自分とかつむりを重ねて詠んだものです。



一歩一歩の歩みは小さいかもしれませんが、しかし、歩み続けることが大事です。みなさんは、4月から中学生です。毎日コツコツと努力することを忘れず、自分の目標・夢に向かって歩いてください。

みなさんを支えてくれる周囲の方への感謝の気持ちを忘れてはいけません。よき出会いがあることを祈りつつ、これからの活躍を期待しています。

大分県 日田市立朝日小学校

坂本 華衣

